

## 入学式式辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。大阪観光大学は皆さんのご入学を心から歓迎します。

このご挨拶を、まずこの度のミャンマー大地震で被災された方々へのお見舞いから申し上げます。今回の入学生の皆さんの中には、ミャンマー国籍の人だけでも22名いますが、地震のために来日が遅れる人も出ています。被災された皆さんが、1日も早くこの不幸な状況から立ち直られることを祈っています。

さて、本学は「観光」大学です。観光という言葉で何を連想しますか？ 普段は体験できないようなきれいな景色を見たり、おいしい料理を食べたりでしょうか。私は、観光を「非日常空間への移動を伴う鑑賞・創造・交流」活動と考えています。留学生の皆さんにとっては、少し難しい言葉かも知れません。英語で言えば、“appreciation, creation, and exchange activity in extraordinary spaces”ということになるでしょうか。

このうちここでは鑑賞を例にとって考えてみましょう。富士山に登って、頂上から赤い夕日を観たとしましょう。多くの人はその美しさや雄大さに感動することでしょう。

すばらしい夕日を目の当たりにした人の感覚には、それまで歩んできたその人の人生、そこでの様々な体験・経験の全体が、理屈抜きに一瞬にして感情に反映されます。誰もが感動するとしてもその仕方や程度は様々なのは、それぞれがそうした多様な人生の中で作り出された多様な感性を持っているからです。この感性的な認識のもっとも高度な形態が、芸術的認識です。

ある人は一方ではこうも考えます。夕日はなぜ昼の太陽と異なり赤いのだろうと。その答えは、光の波長とそれが通過する大気の違いにあります。一般に、光は多様な波長を持つ光の合成です。このうち、赤い光が一番長い波長を持っているため、空気中の様々な障害物をすり抜けて遠くまで到達することができるため夕日は赤く見えます。これは感性ではなくて、理性的・論理的・概念的な認識、その頂点としての科学的な認識です。

このように、私たちは意識的・無意識的かを問わず、ものごとを感性と理性の両方で捉えています。これまでの人生の中で、感性と理性をどの程度、どのように育んできたかで感動の広さや深さは異なります。ものごとに感動・共感し、やりたいこと、好きなことに主体的に取り組む力を、本学では「楽しむ力」と呼んでいます。本学に入学された皆さんがこれから授業やクラブ活動等を通じて学ぶ中身は、一言で言えば、この「楽しむ力」にほかなりません。

自分の自由意思で行ってみたいところを訪ね、興味のあるものを鑑賞し、好きなものを作り出したりすること、これが観光の本質です。しかも忘れてならないことは、こうした自由は誰かと「共に楽しむ」ことによってその楽しさが何倍にもなることです。つまり、他者と共感し合う力、言い換えればコミュニケーションが観光においても大きな役割を演じます。

現代社会はサービス社会とも言われます。それは、モノ相手ではなくて何をおいてもヒト

を相手にものごとを実践する社会です。この社会ではとくに、「楽しむ力」は、ヒトとヒトとが相互に感化し合う、つまり共感し合うカーコミュニケーション力として現れます。このコミュニケーション力を左右するのも前に述べた感性と理性です。その限りでは、「楽しむ力」を育むためには、コミュニケーション力をつけることがおおいに大切です。学生生活において様々な人たちと交流することを通じて、是非ともコミュニケーション力を高めていってください。

ちなみにこのことは、二重の意味で単にテクニックの問題ではありません。第1に、前提となるのはこれまでどのような感性と理性を育んできたかです。第2に、高い感性と理性は、ある場合にはしゃべらなくても、言葉を使わなくてもいわばオーラとして表れます。ロマン・ロランの次の言葉がこれを物語っています。

「人が他人に感化を与えるのは言葉によってではない。その人間の存在によってである。まなざしにより、身ぶりにより、晴れやかで清澄な魂の無言の接触によって、身のまわりに、あるかがやさしい雰囲気放射してそれが他の人々の心に平和な落ちつきを与えるような、そんな人々が存在する。」(『ジャン・クリストフ』河出書房版)

「輝かしい雰囲気放射してそれが他の人々の心に平和な落ちつきを与えるような」、そうした種類の人間のみが持ち得るオーラ、これもまた高度なコミュニケーション力です。「観光は平和へのパスポート」(国連決議)です。観光を学び実践することを通じて、無惨な戦争のない平和な社会を生み出すとともに、人々の心の平和を実現するためにもこれからおおいに学んでいきましょう。

本学での学生生活が皆さんにとって幸せに満ちたものとなることを願って、学長としてのお祝いの言葉とします。おめでとう！

2025年4月1日

大阪観光大学 学長  
山田良治